内視鏡外科チームとしての臨床工学技士の役割

惠佑会札幌病院 臨床工学科

塚本 真司

当院の内視鏡外科手術における CE は機材のセッティング、点検、接続、スコピストを含む清潔野補助を行っている。スコピスト業務では術者との協調性を経験することで、モニターの適正配置や光学機器の画質や品質向上を目的とした点検を行えている。また、ロボット支援手術でもポート挿入、ドッキング等の清潔野補助を行っている。

トラブル発生時は CE が直接一時対応をしており、メーカーにアドバイスを求める事は皆無である。迅速かつ安全な手術環境の提供により医師のストレスを軽減している。

今年度、ロボット支援手術の保険適用が拡大され、当院でも新たな診療科で使用を開始した。 CEの業務効果として、ドッキング操作を CE が実施しない場合 1 時間 10 分を要したが、CE が清潔野補助を行った場合 25 分であった。特に導入初期や使用頻度が低い科において CE の 清潔野業務支援は有効である。

当院の意識調査では、CEのスコピスト補助を経験した医師全員が医師不足に貢献しており、CEと医師とのスコピストで施術に差が無い結果であった。CEによる清潔野補助業務(臨床)と工学的知識と技術を融合させて業務を実施することで、他職種は装置へのストレスから解放され、最大のポテンシャルを発揮できる。

結果、チーム医療の安全性と質が向上し、先進的な手術環境が現実する。